

HPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチン: 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis
多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか?

HPVワクチンの接種により、以下のような多くのがんを引き起こす型のヒトパピローマウイルス (HPV) への感染が予防できます:

- 女性の子宮頸がん、
- 女性の膣がん・外陰がん、
- 女性・男性の肛門がん、
- 女性・男性の喉頭がん、
- 男性の陰茎がん。

また、HPVワクチンの接種により、女性・男性の性器にできるイボを引き起こす型のヒトパピローマウイルス (HPV) への感染が予防できます。

米国では、毎年12,000人の女性が子宮頸がんにかかり、約4,000人が死亡しています。HPVワクチン接種により、これら子宮頸がんの多くが予防可能です。

ワクチン接種は子宮頸がん検診の代わりになるものではありません。このワクチンは、子宮頸がんを引き起こす全ての型のHPVを予防するものではありません。パップ検診は定期的に行ってください。

通常、性行為によりHPVに感染し、多くの人が一生のうちに感染を経験します。毎年米国では、ティーンエイジャーを含め1,400万人が感染しています。多くの場合、自然に正常に戻り深刻な問題には進展しません。それでも何千人もの男女が、HPVがもたらすがん・その他の病気を発症します。

2 HPVワクチン

HPVワクチンはFDAにより承認されており、CDCは男性・女性両方へのワクチン接種を推奨しています。標準的な接種年齢は11歳か12歳ですが、9-26歳までの間に接種する場合があります。

9-14歳の間であれば、HPVワクチン接種は通常2回行い、初回接種から6-12カ月の間隔をあけて2回目が接種されます。HPVワクチンの初回接種年齢が15歳以上である場合、接種回数は3回で、初回接種の1-2か月後に2回目、初回接種の6か月後に3回目を接種します。これらの推奨年齢には例外があります。詳しくは医師にお尋ねください。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

- HPVワクチン接種後に強い（生死に関わる）アレルギー反応が見られた場合、以後のワクチンの接種はできません。
- HPVワクチンの成分に強い（生死に関わる）アレルギーがある場合には、ワクチンの接種はできません。

イースト菌アレルギーを含め、何らかの強いアレルギーがある場合は医師にお伝えください。

- HPVワクチン予防接種は、妊娠中の女性には推奨されていません。予防接種時に妊娠していたことがわかっていても、母体や胎児に問題となることはありません。HPVワクチン接種時に妊娠していたことがわかった場合、1-800-986-8999まで連絡し、妊娠時HPVワクチン接種として製造業者に登録を行うよう推奨されています。授乳中の母親は接種してもかまいません。
- 風邪などの軽い病気にかかっている場合、本日のワクチン接種はおそらく可能です。中程度から重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまで待たねばなりません。医師の診断を受けてください。

4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

HPVワクチンを接種しても、ほとんどの場合に問題はありません。

HPVワクチン予防接種後に発生する軽度および中程度の問題には以下が含まれます:

- 接種部分の反応:
 - 痛み (約10人中9人)
 - 赤み・腫れ (約3人中1人)
- 発熱:
 - 微熱 (100°F) (約10人中1人)
 - 中等度熱 (102°F) (約65人中1人)



- 他の問題：
-頭痛（約3人中1人）

ワクチン予防接種後に想定される問題：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくはwww.cdc.gov/vaccinesafety/をご覧ください。

5 重大な反応があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応として、蕁麻疹・顔と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後通常数分-数時間後に現れます。

何をすべきですか？

強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼ぶか最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。

その後、アレルギー反応をワクチン有害事象例報告データベース（VAERS）へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム（VICP）は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は？

- 医師にご相談ください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター（CDC）にご連絡ください：
- 1-800-232-4636（1-800-CDC-INFO）まで電話か、
- CDCのウェブサイトwww.cdc.gov/hpvをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
HPV Vaccine

12/02/2016

42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by the Oregon Health Authority

Office Use Only

